



寿都町主催シンポジウム シリーズ第2回

ファシリテーターズからのメッセージ

目的

地層処分をめぐる
様々な考え方を町
の皆さんに知っても
らうこと

吉田省子・宮本奏・津田光子・明田川知美





どんな声も大事にしたい → □ 工夫

前半

岡村聡 先生
竹内真司 先生

後半

伊藤聡子 先生
上園昌武 先生

それぞれ【専門家に聞いてみよう】

●□ → 回答

●□ → 回答

その場での回答や残された質問
への回答は、後日HPに掲載

前半
質問/感想

後半
質問/感想



前

後



- 意思表示できません
読み上げ ○□×
貼り出し ○□×
- 名前書かなくて良い

貼り出し

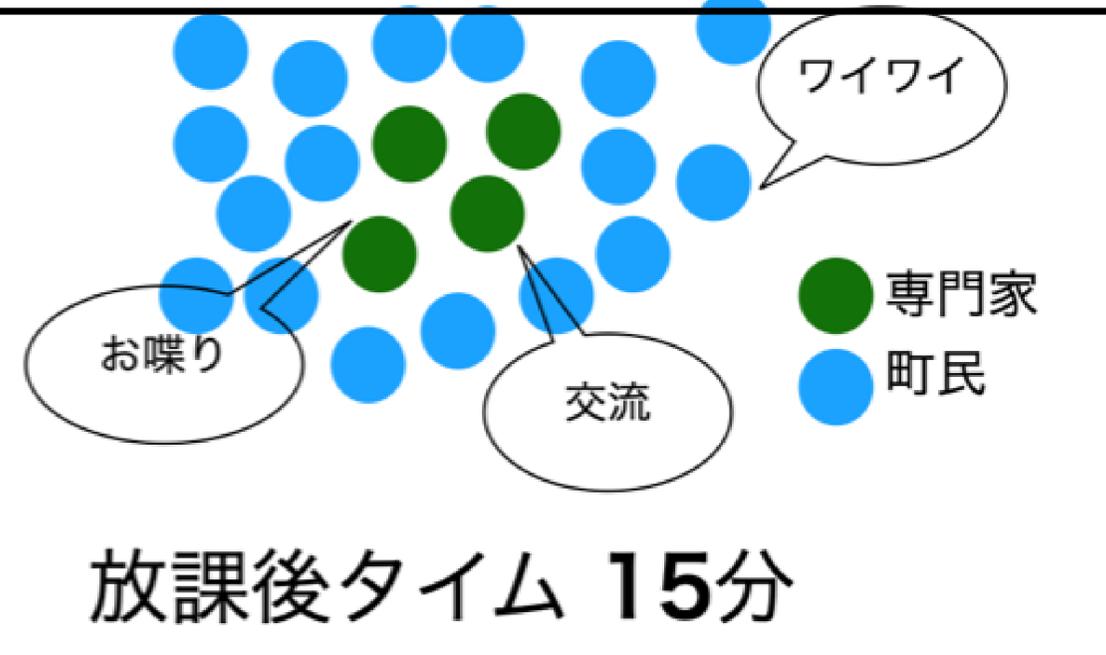
前半
ボード

後半
ボード

撮影OK

終了後

放課後タイム 15分



20年前～新しい科学技術の成果「トウモロコシの遺伝子を入れた稲」が札幌市内で栽培 → □ 大問題に

- □ 北海道全体で議論 → □ 厳しい条件付きの「遺伝子組み換え作物」の栽培に関する条例 < ● □ 栽培されていない >
 - ・ 科学的に安全だと言われても疑問・不安・不信 → 社会の多くの人々が納得しなければ先に進めない
 - ・ 社会の納得は大事です。しかし → 進めたい人達が社会的な納得をと言い出すと → 押し付けになりがち
- □ 注意が必要・・・地層処分問題もそのような性格・・・

なぜ一つの地域に学び考えることが押し付けられるのか？

- ・ 科学や技術だけでなく、社会の納得やエネルギー政策も？
- ・ 国民的議論？ 道民全体の問題になっているか？
- ・ **社会の納得を作り出すトップランナーになる義務はないが**

➡ 納得の醸成が大事だと外から言われるのではなく

- ・ 自分は何を望んでいるか？どんな町になってほしいか？
→ と、寿都町で暮らす**生活者**として考えることは、
若者でも高齢者でも大事ではないか

岡村先生

北欧と日本の地質構造は違う
～プレート内の北欧
／沈み込み境界の日本
地層処分基準—断層—
日本と北欧では差異
磯谷溶岩／第四紀火山～新知見

竹内先生

- ・ 地層処分の有効性～天然原子炉の話
- ・ 期待される技術として
～人工コンクリーション
- ・ トランスサイエンスという言葉
市民参加・社会の納得

伊藤先生コメント

原発を動かさなくてはならないという状況

→ 廃棄物処分についても
道筋つけなければ

おまけ トランスサイエンス

—後で読んでください／豆知識—

- 科学が全ての答えを出せるわけではない、という話。
 - ・ 「科学者が研究で分かる」こともあれば、それだけでは決められないこともある。
 - 「ある川にダムを作ると洪水を防げるか？」という質問には、科学(技術)が答えを出せる。
 - ・ 過去のデータを調べたり、科学的な計算をしたりして、
 - ・ →「効果がある」／「効果が小さい」といった結論を出せる。
 - ・ でも、「そのダムを作るべきか？」という質問には科学(技術)だけでは答えを出せない。
 - ・ 科学で決められないこと・部分が出てくる
 - 川の近くに住む人の生活、自然への影響、お金の使い方、
 - そしてみんなの気持ち、
 - ・ こうしたことが関係してくる
 - ・ これは、住んでいる人たちや政治家などの人々が話し合って「人間としてどう決めるか」という話。
 - 「科学でわかること」と「人間としてどう決めるか」をつなぐ部分が「トランスサイエンス」。
 - ➡□ 一部の専門家だけではなく、みんなで考え、話し合うべき問題があるということ。